

科目名	アカウンティング論特講	担当者	タテミヤ 建宮 ツトム 努	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>企業を会計数値面から判断する意思決定ツールとしての財務分析力を身につけ、その基本として財務会計知識を理解し、英文会計用語を理解して、グローバル企業の財務分析を独力で行える力を養うことを目的とする。</p>		
到達目標	<p>前期は財務会計を基礎から理解し、会社・経営の実態を見る目を養うべく管理会計についても、意思決定に資するような財務分析スキルを身につけることを目標とするとともに、企業の在り方について考察する。後期は前期で修得した知識を活用して、具体的な企業の財務諸表を更に深く理解する。同時にグローバル展開を図る日本企業にとって重要な米国会計基準、国際会計基準の基礎についても知識を得る。さらに応用として、個別の勘定科目における英文会計用語を習得し、独力でグローバル企業の英文財務諸表を分析し、考察できる能力を身につけることを目標とする。</p>		
学修方法	<p>まず指定教材を読み込み、その上で参考となる文献を探索し、実際の企業の財務諸表をインターネット上から入手して、財務分析を行っていく。そして、複数の企業を比較しながら、財務的な視点での課題や優れている点を発見し、コメントできる能力を養いつつ大学院レベルでのレポート技術を身につけていただく。</p> <p>財務分析は、難しいものではないので、未経験の方は、早い段階で草稿を提出し、適宜適切なアドバイスを受けることをお勧めする。</p> <p>後期は前期の応用として、英文会計用語を駆使した、グローバル企業の比較分析を中心とするが、話題になっている、または自らが関心のあるグローバル企業を分析しながら英文会計用語を身につけ、その結果について自らのコメントを練り上げていく中で、実際のビジネスで活用できる英文財務分析スキルを身につけることを期待する。こちらも早期の段階で草稿を出しながら、アドバイスを受けてレポートを練り上げる方法を推奨する。</p>		
スケジュール	<p>前期については、5月より学習を開始し、6月に指定テキストをざっと読んだ上で、最初の草稿を6月後半から7月前半に出すことが望ましい、この時点で適切なアドバイスを受けることで、8月くらいまでには、最終提出レベルに近いレポートを練り上げることが可能となる。</p> <p>後期については、10月より学習を開始し、11月に指定テキストをざっと読んだ上で、最初の草稿を11月後半から12月前半に出すことが望ましい、この時点で適切なアドバイスを受けることで、12月後半くらいまでには、最終提出レベルに近いレポートを練り上げることが可能となる。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	90%	課題レポートを重視する。論理の展開のベースとなる適切な資料探索能力および文章構成の論理性も考慮する。
	平常評価	10%	提出期限を考慮したスケジュールリング能力について評価する。ぎりぎりになってあわてて提出することのないよう、しっかり計画を立てて自己管理をしながらレポートを進めて欲しい。
履修者への要望	<p>グローバル経営（MBA）部門のコア4科目のひとつであり、他の科目（グローバル経営戦略論特講、マーケティング論特講、現代ファイナンス論特講）と合わせて履修することが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 山根 節, 太田 康広 教材名： 『ビジネス・アカウンティング (第3版)』 (中央経済社, 2016年) ISBN-13:978-4-50-218891-6 2,800円+税
	大学院レベルで必要な会計の基本的な知識について, 網羅的かつ体系的にまとめられている本。本書で紹介されている基本的な経営分析ツールを理解し, 活用できるようになることで, 経営上の基本的な問題点や課題を理解することができるようになる。
参考図書	桜井久勝・須田一幸 『財務会計・入門 第10版補訂』(有斐閣アルマ, 2016年) ISBN-13:978-4641220737 1,800円+税
履修上のポイント	1. 財務会計のシステムと基本原則を理解する。 2. 企業の設立と資金調達の方法を, 実例とともに考える。 3. 実在する企業の財務諸表の経営分析を行うことにより, 理解を深める。 4. 管理会計の手法を理解する。
レポート課題 1	財務面に留意して, 「良い会社」の条件につき述べよ。 <b>留意点:</b> 具体例として, 簡潔に最低3社の財務分析を実施すること。財務分析は, 1社あたり3年分の時系列データを分析し, 財務構造の違いや優劣についてコメントすること。
レポート課題 2	株式会社は資金調達上, どのような点で有利か, 具体的に述べよ。 <b>留意点:</b> 有限責任制度および経営の分化と派生する利害問題に留意しながら論述することが望ましい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 大津広一 教材名： 『英語の決算書を読むスキル-海外企業のケーススタディで基礎と実践をおさえる』 (ダイヤモンド社, 2012年) 1,900円+税 ISBN-13:978-4-47-801794-4
	国際財務報告基準 (IFRS) を中心に, 上級レベルの財務会計知識について仕訳をベースに体系的にまとめた本。
参考図書	建宮努『ゼロからはじめる英文会計入門(第3版)』(中央経済社, 2015年11月) ISBN 978-4502166815 価格 2,500円+税
履修上のポイント	1. 国際財務報告基準および米国会計基準の基本を幅広く理解する。 2. 実在する企業の公開財務諸表を基に理解を深める。 3. 具体的な企業(海外企業も含む)の実例に基づき, 詳しい財務分析ができ, 問題点が指摘できるよう努める。 4. 参考図書等を利用して, 基本的な英文会計用語による個別勘定についても理解する。
レポート課題 1	日本の会計基準と, 欧米型会計である国際財務報告基準 (IFRS) の企業評価における考え方の基本的な違いについて考察し, 考えを述べよ。 <b>留意点:</b> 日本と欧米では「企業とはどういう役割を持つのか」という視点での違いがあることに着目してコメントすることが望ましい。
レポート課題 2	国際財務報告基準 (IFRS) で決算を行っているグローバル企業(国内, 海外)について, 関心のある2社を選択し, 公開されている財務諸表のデータを使って基本的な財務分析を行い, 各企業の財務的な課題および優れている点について比較的にコメントせよ。 <b>留意点:</b> グローバル企業の公開決算情報をそのまま活用できるスキルを身につけること。レポートに使用するデータは日本語の財務諸表でよいが, 内容的にはIFRSの内容を理解すること, 英語の決算書をそのまま読めるよう英文会計用語の習得に留意することが望ましい。